

令和6年 2月22日(木)	発達障害者地域支援マネジャー 全国会議	国立障害者リハビリテーションセンター	リモート
------------------	------------------------	--------------------	------

イ スーパーヴィジョン事業

期間	回数	内容	スーパーバイザー	開催地
4月～ 令和6年 3月	12	PCITにおけるスーパーバイ ズコンサルテーション	PCITインターナシヨナ ル認定トレーナー	リモート

(7) リスクマネジメント

ア 事故・ヒヤリハット

事故：0件

ヒヤリハット：20件（研修事務9件、相談関係7件、その他4件）

イ 苦情解決

苦情なし

静岡県中西部発達障害者支援センター

1 対象圏域

対象	圏域	人口 (R5. 4. 1 推計)
	東 部 (富士以東)	1, 141, 814 人
○	中西部 (藤枝以西)	959, 793 人

※人口は静岡市、浜松市を除く

2 職員体制

職種	人数	主な資格	備考
管理責任者	(1)人	社会福祉主事等	相談支援、兼務：1
相談支援	4人	公認心理師・中学校教諭等	発達障害者支援 コーディネータ ー兼務：1
発達支援	3人	公認心理師・保育士等	
就労支援	2人	精神保健福祉士・特別支援学校教諭等	
事務員	2人		
計	11人	—	—

※1人の職員が複数の職種を兼務する場合又は法人や外部の機関と兼務する場合は備考にその旨を記載すること。

3 事業実績

別紙1のとおり

4 これまでの運営の総括及び次年度以降の方向性

これまでの 運営総括	<p>相談ケースを通して市町や関係機関との協働を通して、地域の支援力向上に努めてきた。4年目で相談件数は安定しつつあり、ケースの類型化による検証を進めているところである。</p> <p>Q-SACCS を活用した地域支援体制について、管内13市町の全てにおいて作成され、各年のアップデートを行っている。</p> <p>地域単位で展開されている研修や発達障害支援の居場所等に関し、関係行政、事業所に対し調査を実施し必要な研修実施につなげた。</p> <p>職員体制においては定着が進まない実態があり、専門性の確保と育成が重要課題である。</p>
次年度以降 の方向性	<p>ケース相談にあっては、地域支援機関との協働を通して相互の支援力を高めていく。</p> <p>各市町の当事者ニーズを拾いながら地域における支援体制整備に向けた協議の機会構築を図る。</p> <p>地域活動支援センター、児童発達支援事業所等の調査を踏まえ、家族支援や成人期以降の居場所に関する普及発信を図っていく。</p> <p>地域の支援体制協議の場として、Q-SACCS を活用しながら市町行政向けの研修、交流の機会をもつ。</p>

5 相談支援の事例(他機関と連携した好事例・困難事例等)

(好事例)

相談者	
ケース概要	
連携機関	
支援概要	
ポイント	

(困難事例)

相談者	
ケース概要	
連携機関	
支援概要	
ポイント	

6 各種研修、普及啓発等

(1) 各種研修(主なものを抽出)

研修名	対象者	参加者数
成人期支援者研修	就労継続支援B型事業所職員	延45人
研修の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者を対象とした特性理解と支援方策に関するワーク中心の研修 ・講義動画配信+集合2回の構成 ・インターバルワークを設け自事業所の実践を報告、ブラッシュアップ 	
期待する効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者が事業所全体でケースを協議共有する機会の創出 ・個別的視点を持ち、明示的な支援が実施展開される 	

研修名	対象者	参加者数
高校大学連携研修	高等教育機関教員等	26人
研修の概要	高等学校及び大学等における進路指導、サポート状況等の共有をふまえた、接続連携の課題等にかかる情報連絡のあり方について学ぶ	
期待する効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・接続期支援の効果的実践 ・学外連携や社会資源の理解と活用の視点 	

研修名	対象者	参加者数
ピアサポート支援者研修	地域活動支援センター・相談支援事業所	17人
研修の概要	成人期の発達障害者の理解と地域支援の実践における対応プログラム等にかかるワーク中心の研修	
期待する効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害者の受け入れ促進 ・特性に基づく支援の視点の定着 	

(2) 普及啓発事業等

取組名	対象者	取組概要
世界自閉症啓発デーおよび発達障害啓発週間関連	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・Jリーグ（藤枝）及びリーグワン（静岡）ホームゲームでの啓発イベント ・金融機関窓口への啓発画像の掲出 ・管内市町図書館における特集コーナーの設置
一般広報	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・市町広報誌への掲載 ・HPにおける情報発信
研修講師派遣	警察学校生	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の基礎的理解、対処の留意点などに関する説明
	静岡県総合教育センター	
	県知的障害者福祉協会	

7 関係機関との連携

静岡県中西部発達障害者支援センター連絡協議会

構成員	当事者団体、医療機関、児童相談所、教育機関、保育園団体、障害福祉団体、相談支援事業所、就労関係機関、行政等	
開催日	令和5年6月30日	令和6年2月8日
協議事項	事業計画説明 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健体制について ・家族支援について ・成人期研修について 等 	事業報告 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・各領域における発達支援の現状、課題の共有 ・家族等支援事業について 等

中西部連絡会

構成員	志太榛原圏域及び中東遠圏域を担当する、圏域スーパーバイザー、就業・生活支援センター、発達障害者支援コーディネーター	
開催日	5月	3月（予定）
協議事項	各圏域における事業実施体制及び地域課題の共有と協働実践の検討	各圏域の事業実施内容の共有と次年度の共同実践の計画

（その他）

- ・発達障害者支援コーディネーター連絡会
- ・志太榛原圏域自立支援推進会議
- ・中東遠圏域自立支援協議会 等

(1) 医療関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none">・ケース支援において主治医、地域連携室等とタイムリーかつ緊密な連携を図ることができた・ケースに応じ、同行受診支援や支援機関による受診相談を実施・医療機関からの紹介ケースもあり、随時情報連携を図っている・県立医療機関児童精神科医からの定期的なコンサルテーションを受け、医療福祉連携のセンター機能を確認
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none">・引き続きケースを通じた機関連携を展開していく・コンサルテーションの継続実施

(2) 保健・福祉関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none">・モデル自治体における母子保健システムと支援に参画し、評価尺度などの導入を促進する・市町発達支援連絡会に参画し、支援システム協議やケース検討を実施し発達障害支援の視点を提供できた・市町協議会に参画しながら、福祉事業所との関係強化や地域の相談支援体制について協働的に協議をすすめることができた・入所施設に対する事業所コンサルテーションの実施・個別ケースを通じた連携、相談、支援会議の実施・市町主催相談会、巡回相談の参画
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none">・地域ニーズに応じながら、体制強化のための後方支援を中心に展開していく

(3) 教育関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none">・圏域協議会の場を通し、各地域教育委員会及び特別支援教育コーディネーターとの教育福祉連携に対する協議を実施・高校大学連携の機会を創出し、高大接続の実践や課題を共有しながら、各機関の体制を把握する・高等学校に対するコンサルテーションの実施・個別ケースを通じた連携、相談、支援会議の実施
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none">・市町教育関係とは、ケース支援を含めさらなる連携強化を図っていく・高等学校、大学機関との連携強化を図るための協議の機会を検討していく

(4) 労働関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none">・就業・生活支援センターとの定期的な連絡会、協議会を通し相互の情報や課題、支援手法について共有する・ケース支援を通し、HW トータルサポーター、サポートステーション、市町就労支援センター、障害者職業センターとタイムリーかつ緊密な連携を図ることができた
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none">・就業・生活支援センターとケースを協働しながら、企業への理解や他機関連携の情報発信を図る・引き続きケースを通じた連携を図っていく

(5) 当事者団体関係

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none">・当事者団体（自閉症協会、きんもくせいの会、静岡トイソクル、育成会）との定期的な意見交換会の実施により、ニーズの把握、相互の役割等について理解を図る・世界自閉症啓発デーイベントの協働実施と、Jリーグゲームへの試合観戦の実施
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none">・引き続き、意見交換会を中心にニーズを把握しながら、連携を図っていく

(6) 市町(行政機関)

今年度の状況 (自己評価)	<ul style="list-style-type: none">・地域協議会へ参画しながら、発達障害支援の体制把握と機能強化を図る・管内13市町中13市町で地域支援システムの体制評価及びモニタリングを実施・中東遠圏域協議会へ参画し、市町単位での関係各課による地域支援システム(Q-SACCS)のワークを実施する・対象自治体に対し、家族支援の出前相談会を提供実施する・世界自閉症啓発デーの実施状況調査と、活動拡大のための支援を展開する
次年度以降 の方向性	<ul style="list-style-type: none">・引き続き、協議会への参画を通し市町発達支援システムの体制整備に向けたバックアップを展開・モデル地域における地域支援システム(Q-SACCS)のブラッシュアップと庁内連携機会を構築する